


市長のまちづくり座談会。
(11月29日・島田交流センター)



市議会 12月定例会議。
(12月1日・市役所議場)

特集：市長施政方針

市民の皆さんと 対話を重ね 未来志向のまちづくり

市議会 12月定例会議で田中市長がまちづくりの方向性を示す施政方針を述べました。今号では、主要施策の内容を紹介します。





▲高速道路を活用して物流の効率化を図ります。

次の世代につなげる安来市

「オールやすぎで、安心・安全な夢もてる市政づくり」を念頭に市政運営を進めていききたいと考えています。

その実現のために、まず取り組みなければならぬのは財政の健全化、行財政改革です。一つ一つの事業について、まず、行政でやらなければならぬことなのかを精査し、民間でできることは民間に担っていただきたいと考えています。市で担う場合も、今あるものを活用できないかなど、検討しながら取り組みを進め、市民サービスに影響が出ないよう、コスト削減を図ります。

併せて、公共施設等総合管理

計画に基づき、公共施設の適正配置を進めます。市の所有するその他の資産も適宜整理を行い、維持管理コストの軽減、削減に取り組んでいきます。

一方、財政の収支バランスを改善していくためには、コスト削減だけでなく、税収を増やすための取り組みが不可欠です。

安来市を拠点とする企業を増やすことで産業のすそ野を広げるため、素材生産に強みを持つ市内産業の特色を生かし、最終加工を行える企業等の誘致を強化します。同時に、スマートインターチェンジの設置により物流を効率化することで、地場産業の振興を図ります。

さらに、安来市は全市に光

ケーブル網が整備されている強みがあります。コロナ禍により東京一極集中から地方移動の動きが出てきている中、空き家等を活用したサテライトオフィスを整備するなど、ソフト企業の誘致も進めていきます。

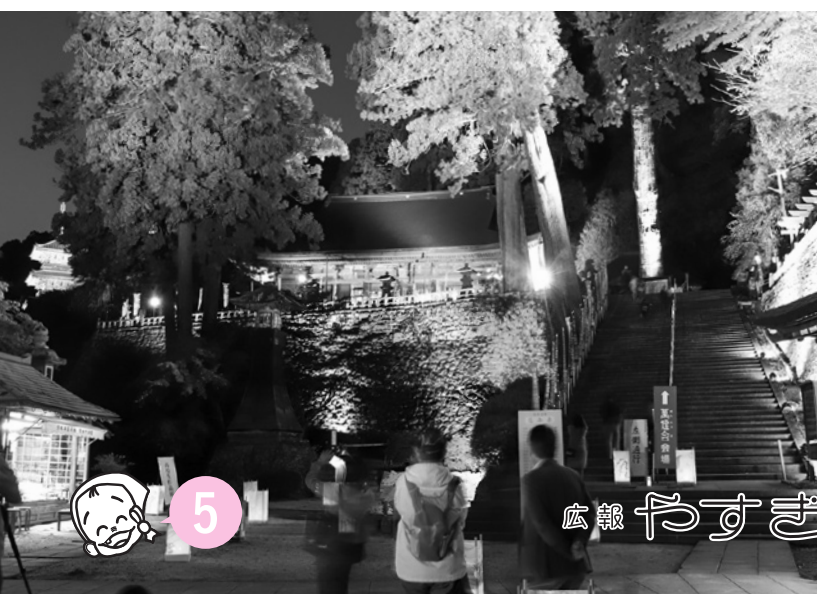
観光消費の拡大を

現在は新型コロナウイルス感染症の影響により観光客数の増加に見通しが立てにくい状況が続いています。しかし、収束後を見据えて、国内だけでなく海外からも誘客できるようなインバウンド対策に力を入れることが必要です。海外観光客の誘客やそのためのプロモーションは、安来市単独ではなく、広域で取り組むことが費用対効果の面でも効果的と考えています。

私は現在、中海・宍道湖・大山圏域市長会の会長でもあります。圏域各市と連携を取りながら、その中心となつて圏域が海外観光客の受け皿となるよう環境整備、魅力化を進めます。

また、観光は、来てもらうだけでなく、安来に滞在し消費していただくことが重要です。観光消費により安来市の経済が活性化するよう、民間の力、アイデアを生かした民間主体の仕組みづくりを構築していきます。

◀安来市を代表する観光地の一つ「清水寺」(写真は、令和2年10月に開催した清水寺灯参道の様子)。▼安来市観光協会が主催した、旅行誌、交通・宿泊業者向けのたたらを核としたモニターツアー(和鋼博物館)。





令和元年に開催した安来市立病院まつり。引き続き、地域に根ざした病院を目指していきます。



各交流センターでは、セラバンド教室など、高齢者の健康づくりの取り組みが行われています。



原子力防災訓練の様子。さまざまな災害に備えて、訓練などを実施していきます。



農業用ドローン。農薬の散布などに活用します。農業者の労働負担軽減が期待できます。



自動操舵システム付きのトラクター。令和2年9月に機械のデモンストレーションを市内のほ場で行いました。

持続可能な農林業に

土地改良事業の推進により労働生産性の向上と大規模経営化を図ります。また、中山間地域農業農村総合整備事業の活用により、農業の生産条件等が不利な中山間地域の基盤整備、環境整備を進めます。

さらに、農業のデジタル化を進めるため、安来市はモデル的な取り組みを行います。ICTを活用することで、農業の省力化、品質の安定化を図るとともに、若者の農業参入を促すことができますと考えています。

併せて、営農組織の育成や特定地域づくり事業協同組合の活用、森林環境譲与税による森林の再生等を進めます。これにより、後継者を確保し、農林業が持続可能なものとなるよう取り組みます。

地域に合った医療・介護・福祉の体制を構築

市民の皆さんが安心して暮らしていくために、保健・医療・介護・福祉の充実が重要です。団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年に高齢者人口がピークを迎えると予測されています。安来市は既に高齢化が進んでおり、高齢化社会に対応した医療提供体制の構築が必要で

す。

また、中山間地域の医療を支える自治体病院の果たす役割は大きく、市立病院の経営改革は急務です。

国で公立病院改革を所管している総務省、厚生労働省から助言を得ながら、市立病院のあり方を検討します。また、地域の医療機関等と連携して、地域の実情に即した医療・介護・福祉の連携体制の構築を進めます。

そして、その体制を支える医師・薬剤師・看護師・介護士等についても、人材確保のための仕組みを検討していきます。

防災意識の強化に向けて

近年、全国的に豪雨災害が続いている中、最新のデータに基づいた対策が必要です。浸水想定区域や土砂災害警戒区域等の再確認を行い、指定している避難所の安全性を速やかに精査し、ハザードマップ等で市民の皆さんに周知します。

また、災害時に迅速に避難し、被害を軽減するためには、普段からの防災意識の向上が不可欠です。市民の皆さんがいざというときに適切な行動が取れるよう、地域防災組織の育成等により地域防災力の強化を図り、安心・安全な安来市の実現



児童クラブで楽しそうに過ごす子どもたち。今後も子育てしやすい環境整備を行っていきます。



安来の未来を担う子どもたちに、暮らしやすいまちを残せるよう施策を進めていきます。



令和2年1月に東京都で行われた「しまねUターン相談会」。まちのPRに積極的に取り組んでいきます。



高等学校と連携して生徒が集う魅力あふれる学校を目指します（写真は情報科学高校）。



市外からの生徒の受け入れ拡大を図ります（写真は安来高校）。

を目指します。

安心できる子育て・教育環境を提供します

子育て支援については、放課後児童クラブの充実や病児保育の実施により、子育てしやすい環境を整備します。また、女性活躍の推進にもつなげていきたいと考えています。

教育については、新学習指導要領全面实施に対応し、将来を担う人材を育成するため、ICT教育のための環境整備を進めます。

併せて、将来の人口動態を見据えながら、学校配置の適正化も調査、検討を進めていかなければならないと考えています。

また、「しまね留学」により、若い人材を市内に迎え入れ、その後も安来市に関わってもらえるよう受け入れ体制を構築します。それと同時に関係人口の拡大や定住推進のため、私自身が各地に足を運び、トップセールスで安来市の魅力発信や人材獲得、企業誘致に取り組みます。

未来を描ける人材づくり

定住対策に関してはU・Iターンの促進と併せて、地元の人にもっと安来を知ってもらい、好きになってもらい、定住

してもらえる取り組みを進めていきたいと考えています。

最後に、安来市を次の世代につなげていくためには、将来を担う若者に夢を描いてもらうことが必要です。市役所と市内企業の若手職員同士が意見交換や交流ができる場を設けたいと考えています。

地域づくりは、人と人が直接向き合って話し合いをしながら、未来志向を進めることが重要です。

私自身も、市民の皆さんと意見を交わす場を定期的に設けて、ともに安来の未来を描いていきたいと考えています。

そして、市政運営にあたっては、現状を的確に把握し、情報を分析し、決断、実行します。まちの未来のため、全身全霊で取り組みますので、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

施政方針の全文は市ホームページに掲載しています。左のQRコードからご覧いただけます。問い合わせ

定住政策課 ☎23・3060

